

SDGs 2030目標 (持続可能な開発目標)



SDGs 2030目標

(持続可能な開発目標)



環境負荷低減

- Co2 50%削減 (2021年比較)
- 工場水20万トン節水



(2021年比較:1/3節水)



循環型農業への貢献

- りんご副産物等の活用100%



食糧生産と農業振興

- りんご栽培園地減少への歯止め
- 食品ロス「0(ゼロ)」



健康増進 教育推進

- 健康な身体づくり
- 従業員の技能、職業スキルの向上



JAアオレンとSDGs

青森県の農業振興と希望ある未来へ向けて

職場づくり

- ストレスゼロの職場環境



家



仕事

(単位:トン)

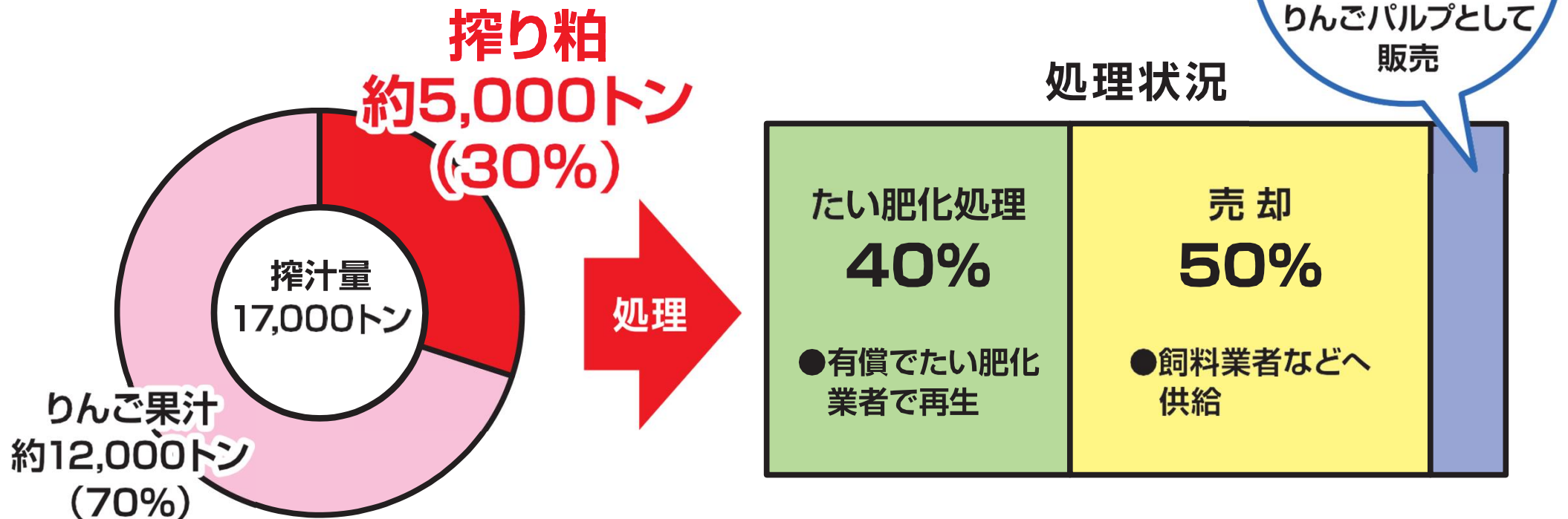
項目 \ 年産		令和 2年産	3年産	4年産
青森県りんご 生産量	A	463,000	415,700	439,000
加工仕向量	B	74,800	51,800	65,000
	B/A	16%	12%	15%
	アオレン 集荷量	C	13,000	17,000
		C/B	25%	26%

加工用りんごは平均的に総生産量の約15%程度を占める

JAアオレンでは、加工用りんご全体の約26%の17,000トンを搾汁

1. 搾汁処理

加工用りんごの約7割はりんごジュースに、
残りの約3割は搾り粕



(加工用りんご17,000トン → **搾り粕 5,000トン発生**)

●搾り粕は、たい肥および飼料、食品素材として活用している

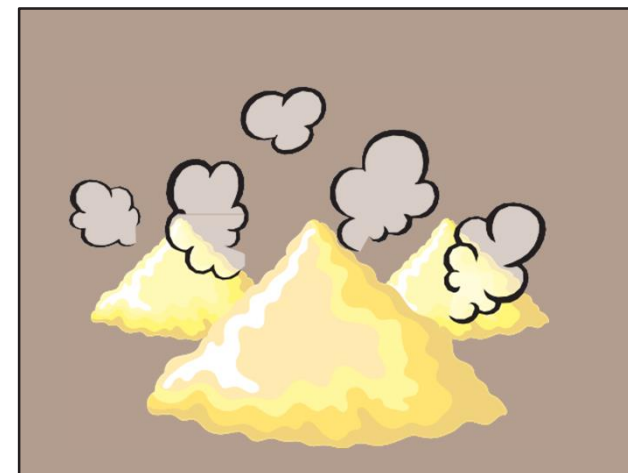
2. 現状の課題等

- (1) 搾汁時期(9月～)になると、
1日あたり60トンの粕が毎日発生することとなり、
保管場所の確保が難しい。



2. 現状の課題等

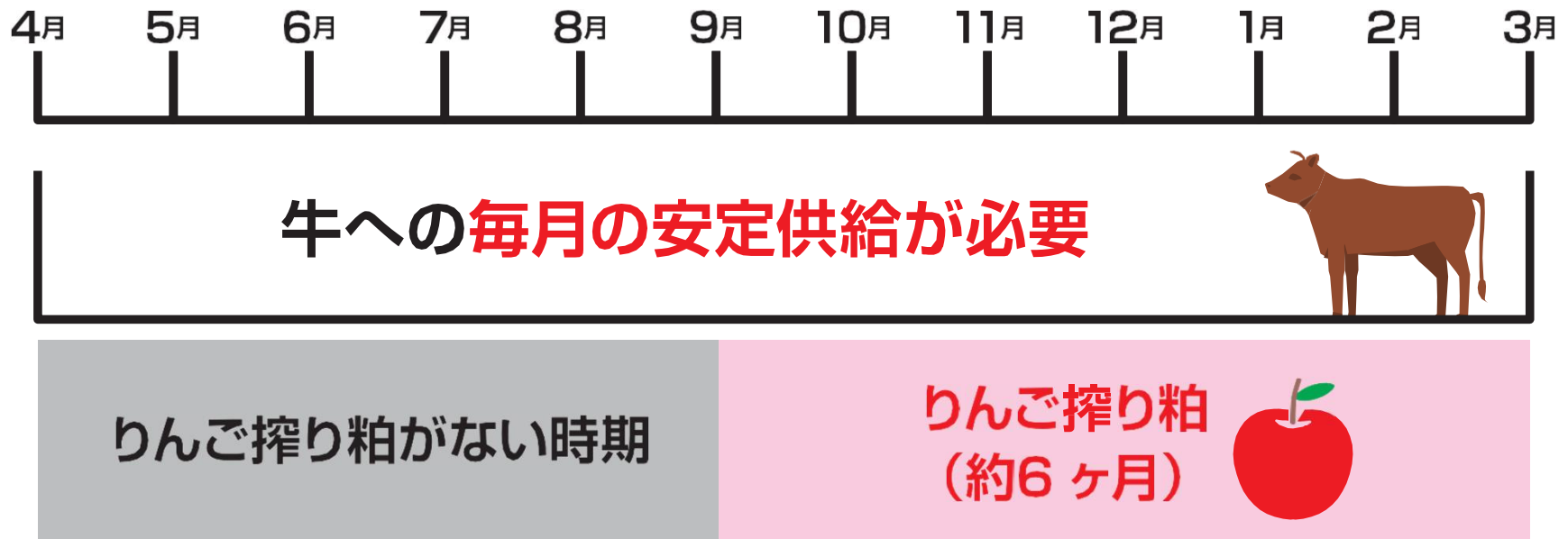
(2) 水分があり**数日で発酵し、臭気も強い**ため、
随時運び出す必要がある。



2. 現状の課題等

(3)

飼料業者への供給において、**りんご搾り粕発生時期** (約6か月間)と、**必要量**(毎月安定供給)との**需給バランス**が難しく、事業として拡大できない。



2. 現状の課題等

(4)

たい肥化するには処理費用が必要となるため、
加工量が増大すれば経営負担は大きくなる。



1. 高熱を利用しない「レドックスマスター乾燥機」

ア. 開発経緯

(ア) **2013年**グレンカル・テクノロジー(株)(代表 中石氏)が開発した独自の乾燥技術を活用し、**りんご搾り粕の低コスト乾燥について共同研究に着手。**

(イ) **約6年の歳月を経て、低温・低コスト乾燥技術を確立。**その技術を駆使した大型乾燥1号機を2019年5月に導入し本格稼働。

